

<h1>第297回 月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 増田	企画運営委員

- ◎ 日時 2018年1月19日(金)10:00～16:30
- ◎ 場所 きゅりあん 6階 中会議室
- ◎ 出席者 18名 (法人会員:9名 個人会員:8名 オブザーバ:1名)

## 1. 報告事項

### 1) 自己紹介・トピックス紹介

#### ① 企画運営委員長挨拶

今回体調不良により欠席者が多く、是非健康管理に気を付けて下さい。

今年度第1回目の月例会開催になりますが、今年も様々な情報や会員の意見を聞きながら、その中で会員共通の課題となった場合は委員会等を立ち上げて調査・研究をやっていきます。

### 2) 定例報告

#### ① 第296回月例会(東京)及び第22回企画運営委員会の概要

詳細は月例会議事録を参照。

—企画運営委員会議事録の補足説明—

➤ 「企画運営委員会規定制定」の案件は理事会の承認を得て、2017年12月10日より施行。

➤ 「月例会300回記念のイベント」について

\* 2017年4月月例会が第300回を迎えるにあたり記念講習を検討中。

記念講演案としては月例会では下記の提案があった。

- ・会員関係の専門家の講演会(3,4人程度)を開催(案1)
- ・外部の専門家への講演を依頼する。(案2)
- ・経営者の講演(案3)
- ・創設期のメンバ(杉本旭氏、三平氏)の講演(案4)
- ・裁判判例のテーマで講演する。(案5)

#### ② 第21回関西月例会・関西委員会活動報告概要

詳細は関西月例会議事録を参照。

## ① トピックス

- 現在厚生労働省「第13次労働災害防止計画」を策定中
- 経産省インテグレータの動向について  
添付資料 297-1-1「経産省インテグレータの動向について」297-1-2「スキル標準シート」を参照のこと。
- 協働ロボットの技術仕様書 ISO/TS15066の JIS 化(TS B 0033)について紹介  
添付資料 297-1-3「協働ロボット TSB0033の PR」を参照のこと。

### 配布資料 3部

資料 297-1-1 「経産省インテグレータの動向について」

資料 297-1-2 「スキル標準シート」

資料 297-1-3 「協働ロボット TSB0033の PR」

## 2. テーマ会長講演 「安全確認型とは何なのか、見直してみよう」

13:00～15:00 安全技術応用研究会会長 福田隆文

### **【概要説明】**

安全確認型は本研究会の基本的な考え方としてホームページ等に紹介されているが、フェール・セーフとの関係や安全確認型システムの定義を見直してみる。

—説明内容—

- ・安全確認システムとは何か
- ・安全確認型システムとフェールセーフについて
- ・リスクアセスメントと安全機能について
- ・「安全確認型システム」の構築について  
事例:ガス湯沸かし器の構成  
事例:本質的安全設計方策 視認性の確保  
事例:光カーテンの使用例(プレス機)  
事例:非常停止(付加保護方策としての安全確認型)
- ・安全確認型システムと危険検出型システムの概念
- ・「安全確認型」とユネイトな情報伝達について
- ・まとめ

—意見等—

- ・安全確認型システムやフェールセーフの定義がよく理解できていない。
- ・フルプルーフとの違いは？
- ・今回意見交換した結果、「安全確認型システム」の理解やとらえ方にばらつきがある事がわかった。  
→対応として「安全確認型システムの手引書(解説)」を作成する事を検討。

**配布資料 1部**

資料 297-2-1 「安全確認型とは—我々の立脚点—」

### 3. 討議テーマ「現状のリスクアセスメントの問題・課題に関する討議/総括」

— サブタイトル:「危害の発生確率」の見積もりについての問題点 —

13:15~16:30 (企画運営委員会)

— 討議内容 —

2017 年月例会で討議してきた危険源の同定～リスクの見積もりについて『総括と今後の方向性』を討議する。

➤ 2017 年度月例会で取り上げたテーマ紹介(今までの討議内容の振り返り)

- ・「重大危険源同定」の洩れについて
- ・「危険源、危険状態、危険事象」を ISO12100:2010 で示される付属書 B に基づいて、系統的に同定する上での方法論及び問題、課題
- ・「危害のひどさ」の見積もりについて
- ・「危害の発生確率」の問題
- ・各社の RA の実例と課題(リスク分析の方法を中心に)

➤ 2018 年にリスクアセスメント委員会発足の紹介

詳細は添付資料 3-1-1「リスクアセスメントの進め方の中間まとめ」を参照する事。

— 質疑応答 —

Q: リスクアセスメント委員会の目的やターゲットは？

A: まずは危険源同定、危害のひどさ、危害の発生確率をターゲットに絞り込んでアプローチしていく規格に沿って役に立てるような手引き書を作成する予定。

要望:例えば加算法における点数付けの割合を検討してほしい。何を重視していくのか

要望:危険源の定義を説明してほしい (英文をみるとポテンシャルになっている)

意見:リスクの見積もり方法のひとつである積算法は、単純な掛け算でいいのか。

(危害のひどさと発生確率のウェイト付けを明確にしてほしい)

**配布資料 1部**

資料 297-3-1 「リスクアセスメントの進め方の中間まとめ」

月例会説明資料

資料番号	資料名
297-1-1	「経産省インテグレータの動向について」
297-1-2	「スキル標準シート」
297-1-3	「協働ロボット TSB0033の PR」
297-2-1	「安全確認型とは—我々の立脚点—」
297-3-1	「リスクアセスメントの進め方の中間まとめ」